

令和3年度実施 卒業生アンケート結果 (2017年度卒業生)

調査期間

令和3年9月15日～9月30日

調査対象者数

90名

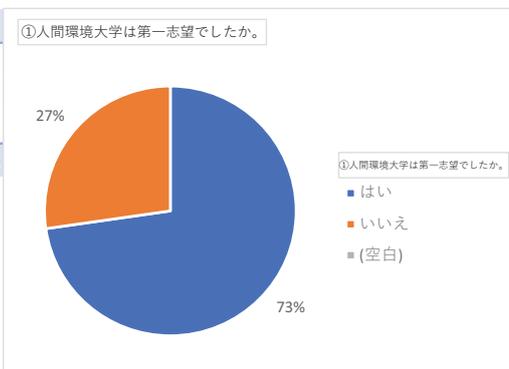
アンケート回答数

11名

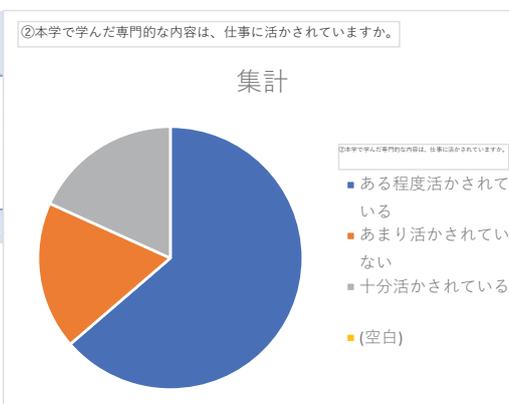
回答率

12.2%

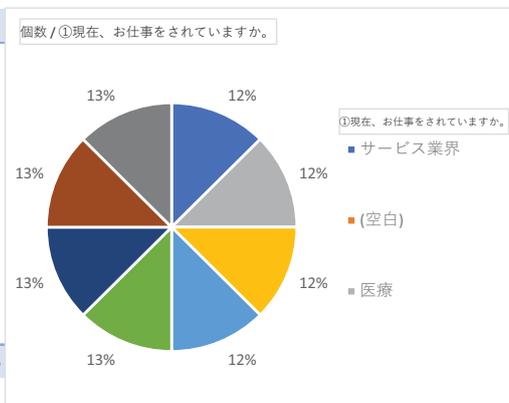
①人間環境大学は第一志望でしたか。	
はい	8
いいえ	3
(空白)	
総計	11



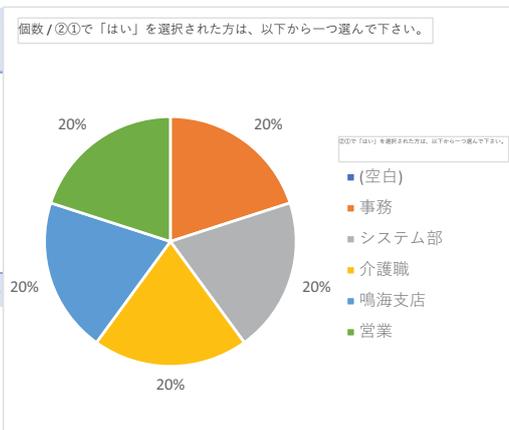
②本学で学んだ専門的な内容は、仕事に活かされていますか。	
ある程度活かさ	7
あまり活かさ	2
十分活かされ	2
(空白)	
総計	11



行ラベル	個数 / ①現在、お仕事をされていますか。
サービス業界	1
(空白)	
医療	1
IT業界	1
福祉業界	1
名古屋銀行	1
製薬	1
教育	1
仕事ではなく、	1
総計	8



行ラベル	個数 / ②①で「はい」を選択された方は、以下から一つ選んで下さい。
(空白)	
事務	1
システム部	1
介護職	1
鳴海支店	1
営業	1
総計	5



令和4年度実施 人間環境大学人間環境学部 令和3年度卒業生アンケート 結果の分析

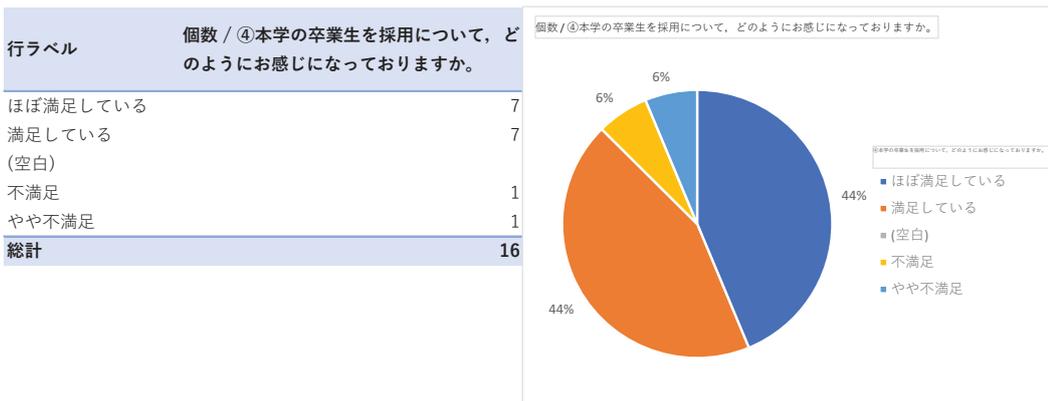
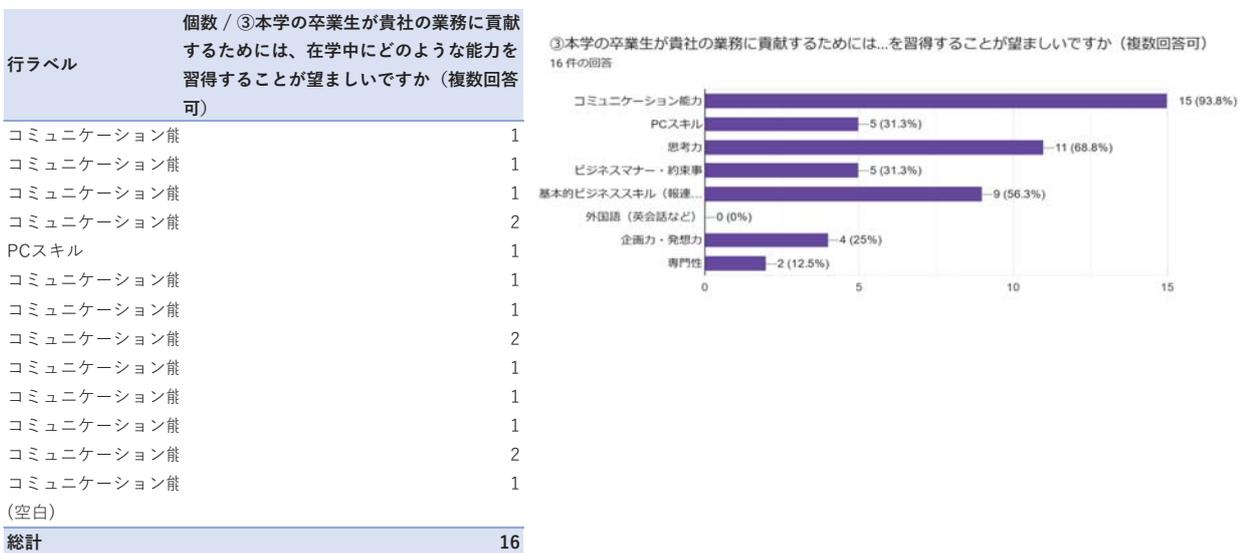
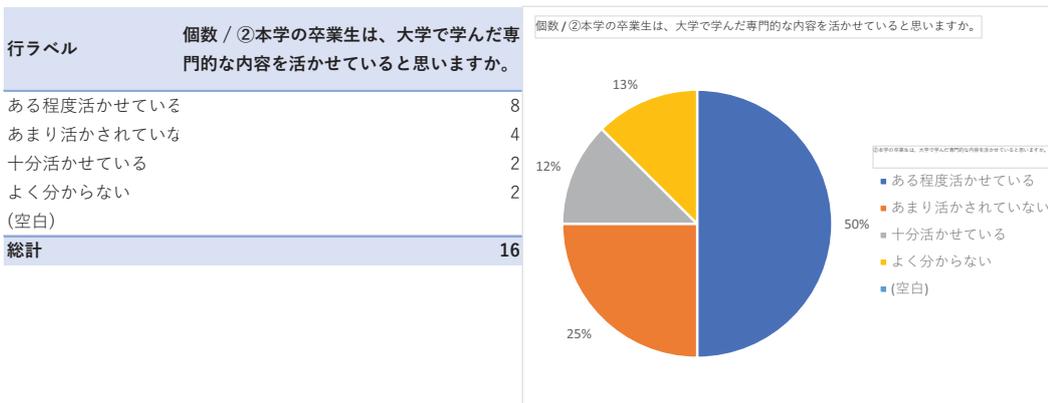
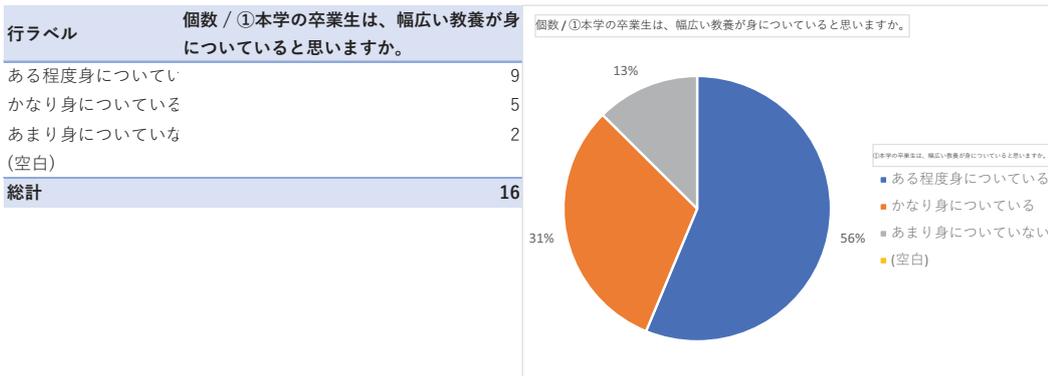
【実施日】 令和4年9月15日～9月30日

【回収率】 11名/卒業生90名（回収率：12.2%）

設問「人間環境大学は第一志望でしたか。」に対して「いいえ」と回答したのは11名中3名（27.3%）であった。また、設問「本学で学んだ専門的な内容は、仕事に活かされていますか。」に対して「ある程度活かされている」「十分活かされている」と回答したのは11名中9名（81.8%）であり、本学で修得した専門知識を仕事に活かすことができていることがわかる。前年度の同調査では60.0%であったことから、学びをどのように卒業後の業務に活かしていくのかについて学部学科の教育の中で適切に指導が行われるようになってきていることが考えられる。

設問「現在、お仕事をされていますか」に対して「はい」と回答したのは7名（63.6%）であり、その業務内容は、システム関連部門、介護、営業、事務など多岐に渡る。これらのことから、卒業生は、本学が卒業後の進路として想定している業種及び職種で活躍していることがある程度把握できたといえる。また、仕事をしていない4名には、進学した者や専門訓練を受けている者がいると推測される。

以上より、引き続き、大学4年間の学びと将来の職業がどのように関連しているのかを受講生が理解しやすい授業展開を心がけることが重要であると考えられる。さらに、今回の回答者は人間環境大学を第一志望として入学した者の割合が比較的高く、この者たちが卒業後に本学で学んだ知識を適切に活用できていることから、入学前において、本学での学びの特長や卒業後に目指す将来像を受験生に適切に伝達することが重要である。このような適切な情報伝達が、在学中だけでなく卒業後の満足度を高めることになると考えられる。



令和4年度実施 就職先企業様アンケート 結果の分析

【実施日】 令和4年9月15日～9月30日

【回収率】 16社/70社（回収率：22.9%）

①「本学の卒業生は、幅広い教養が身についていると思いますか。」に対して、「かなり身についている」「ある程度身についている」と回答があったのは16社中14社（87.5%）であり、本学の卒業生が社会人として求められる教養をおおむね修得していることがうかがえる。また、②「本学の卒業生は、大学で学んだ専門的な内容を活かしていると思いますか。」に対して、「ある程度活かされている」「十分活かしている」と回答があったのは10社（62.5%）であった。一方で、「あまり活かされていない」と回答があったのは4社（25.0%）、「よく分からない」と回答があったのは2社（12.5%）であった。これらの結果から、大学において修得した専門的知識やスキルについて、おおむね業務に役立てることができているものの、専門的知識を活かしていないという回答も一定数みられることが示された。したがって、企業側が本学卒業生の有用性について実感できるよう、学部学科での学びを社会で活用するための教育指導において、さらなる改善が必要であると考えられる。

③「本学の卒業生が貴社の業務に貢献するためには、…を修得することが望ましいですか。（複数回答可）」について、最も回答が多かったのは「コミュニケーション能力」であり、16社中15社（93.8%）より回答があった。前年度の同調査では、「コミュニケーション能力」との回答は81.8%（11社中9社）であったことから、本来であれば、演習科目でのディスカッションや部活動・サークル活動、ボランティア活動などにおいて育成される能力が、新型コロナウイルス対応によって、十分に開発できなかった可能性も考えられる。他にも、「思考力」については11社（68.8%）、「基本的ビジネススキル」については9社（56.3%）より回答があった。令和4年度においては対面での指導が可能となっているので、これらの能力およびスキルについては引き続き、卒業後を見据えたカリキュラムの実践と就活指導において修得できるようにしたい。

④「本学の卒業生の採用について、どのようにお感じになっておりますか。」については、回答のあった16社中14社（87.5%）より「満足している」「ほぼ満足している」との回答があり、おおむね満足を得ていることがわかる。しかし、「やや不満足」「不満足」との回答が2社（12.5%）よりみられた点については真摯に受け止め、今後の就職指導において、本学卒業生に求められているスキルを修得できるよう指導方法を改善していきたい。